

「預言者」の聖書箇所

土地の分配：ヨシュア記 13章～19章 （*13章7節）

ヨベルの年 レビ記 25章 8節～55節

レビ記 25章 8節

あなたは安息の年を七回、すなわち七年を七度数えなさい。七を七倍した年は四十九年である。

レビ記 25章 10節

この五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それが、ヨベルの年である。あなたたちはおのおのその先祖伝来の所有地に帰り、家族のもとに帰る。

ミカ書 2章 2節 彼らは貪欲に畑を奪い、家々を取り上げる。住人から家を、人々から嗣業を強奪する。

レビ記 25章 17節

相手に損害を与えてはならない。

レビ記 25章 23節～28節

土地を売らねばならないときにも、**土地を買い戻す権利を放棄してはならない。**土地はわたしのものであり、あなたたちはわたしの土地に寄留し、滞在する者にすぎない。あなたたちの所有地においてはどこでも、土地を買い戻す権利を認めねばならない。もし同胞の一人が貧しくなったため、自分の所有地の一部を売ったならば、それを買い戻す義務を負う親戚が来て、売った土地を買い戻さねばならない。もしその人のために買い戻す人がいなかった場合、その人自身が後に豊かになって、自分で買い戻すことができるようになったならば、その人は売ってからの年数を数え、次のヨベルの年までに残る年数に従って計算して、買った人に支払えば、自分の所有地の返却を受けることができる。しかし、買い戻す力がないならば、それはヨベルの年まで、

買った人の手にあるが、ヨベルの年には手放されるので、その人は自分の所有地の返却を受けることができる。

レビ記 25 章 39 節～43 節

もし同胞が貧しく、あなたに身売りしたならば、その人をあなたの奴隷として働かせてはならない。雇い人が滞在者として共に住ませ、ヨベルの年まであなたのもとで働かせよ。その時が来れば、その人もその子供も、あなたのもとを離れて、家族のもとに帰り、先祖伝来の所有地の返却を受けることができる。エジプトの国からわたしが導き出した者は皆、わたしの奴隷である。彼らは奴隷として売られてはならない。あなたは彼らを過酷に踏みこめてはならない。あなたの神を畏れなさい。

佐藤 信淵（さとう のぶひろ）（1769 年～1850 年）

最初の王 サムエル記上 9 章 16 節

「明日の今ごろ、わたしは一人の男をベニヤミンの地からあなたのもとに遣わす。あなたは彼に油を注ぎ、わたしの民イスラエルの指導者とせよ。この男がわたしの民をペリシテ人の手から救う。民の叫び声はわたしに届いたので、わたしは民を顧みる。」

ソロモン

調達 列王記上 4 章 7 節

ソロモンはイスラエル全国に十二人の知事を置いた。彼らは、王と王室の食糧を調達した。すなわち、知事は各自毎年一か月分の食糧を調達するようになっていた。

労役 列王記上 5 章 27 節～32 節

ソロモン王はイスラエル全国に労役を課した。そのために徴用された男子は三万人であった。王は彼らを一万人ずつ一か月交替でレバノンに送った。すなわち、一か月はレバノンに、二か月は自分の家にとどまるようにした。この労役の監督はアドニラムであった。またソロモンには、荷役の労働者が七万人、山で石を切り出す労働者が八万人いた。そのほか、ソロモンには工事の責任を取る監督が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮した。神殿の土台の切り石とするため、大きな質の良い石を切り出すように、と王に命じら

れ、ソロモンの石工たちは、ヒラムの石工たちやゲバル人と共同で石を切り出した。こうして、神殿建築用の木材も石材も整った。

反旗 列王記上 11 章 26 節～27 節

ネバトの子ヤロブアムはツェレダの出身でエフライムに属し、その母は名をツェルアといい、寡婦であった。彼はソロモンに仕えていたが、やがて王に対して反旗を翻した。彼が王に反旗を翻すに至った事情は次のとおりである。

二十の町を贈った 列王記上 9 章 11 節

ティルス王ヒラムがソロモンの望みどおりにレバノン杉と糸杉の材木や金を提供してくれたので、ソロモンはヒラムにガリラヤ地方の二十の町を贈った。

ソロモンの費用 豪華な生活 歴代誌上 29 章 21 節

その翌日、彼らは主にいけにえをささげ、焼き尽くす献げ物をささげた。雄牛千頭、雄羊千匹、小羊千匹、それにぶどう酒の献げ物もささげ、全イスラエルのために多くのいけにえをささげた。

ソロモンの費用 戦争 列王記上 10 章 26 節

ソロモンは戦車と騎兵を集め、戦車千四百、騎兵一万二千を保有した。彼はそれを戦車隊の町々およびエルサレムの王のもとに配置した。

参勤交代制度 Toshio G. Tsukahira: Feudal control in Tokugawa Japan : the sankin kōtai system (参勤交代制度の研究)

Distributed by Harvard University Press, East Asian Research Center, Harvard University. 刊行年月 c1966

金持ちの家 Roland de Vaux: Ancient Israel: Its Life and Institutions, Darton, Longman and Todd, London, 1968: pages 72-73

貧富の差

アモス書 5 章 11 節

お前たちは弱い者を踏みつけ彼らから穀物の貢納を取り立てるゆえ切り石の家を建ててもそこに住むことはできない。見事なぶどう畑を作ってもその酒を飲むことはできない。

エレミヤ書 22 章 14 節

彼は言う。「自分のために広い宮殿を建て大きな高殿を造ろう」と。彼は窓を大きく開けレバノン杉で覆い、朱色に塗り上げる。

アモス書 3 章 15 節

わたしは冬の家と夏の家を打ち壊す。象牙の家は滅び、大邸宅も消えうせると主は言われる。

アモス書 6 章 4 節～6 節

お前たちは象牙の寝台に横たわり長いすに寝そべり羊の群れから小羊を取り牛舎から子牛を取って宴を開き豎琴の音に合わせて歌に興じダビデのように楽器を考え出す。大杯でぶどう酒を飲み最高の香油を身に注ぐ。

アモス書 8 章 6 節

弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう。

ネヘミヤ記 / 5 章 1 節～13 節

民とその妻たちから、同胞のユダの人々に対して大きな訴えの叫びがあがった。ある者は言った。「わたしたちには多くの息子や娘がいる。食べて生き延びるために穀物がほしい。」またある者は言った。「この飢饉のときに穀物を得るには畑も、ぶどう園も、家も抵当に入れなければならない。」またある者は言った。「王が税をかけるので、畑もぶどう園も担保にして金を借りなければならない。同胞もわたしたちも同じ人間だ。彼らに子供があれば、わたしたちにも子供がある。だが、わたしたちは息子や娘を手放して奴隷にしなければならない。ある娘はもう奴隷になっている。どうすることもできない。畑とぶどう園はもう他人のものだ。」

この嘆きと訴えを聞いて、わたしは大いに憤りを覚え、居たたまれなくなって貴族と役人をこう非難した。「あなたたちは同胞に重荷を負わせているで

はないか。」わたしはまた大きな集会を召集して、言った。「わたしたちは異邦人に売られていた同胞のユダの人々を、できるかぎり買い戻した。それなのに、あなたたちはその同胞を売ろうというのか。彼らはわたしたち自身に売られることになるのに。」彼らは黙りこみ、何も言えなかった。わたしは言った。「あなたたちの行いはよくない。敵である異邦人に辱められないために、神を畏れて生きるはずではないのか。わたしも、わたしの兄弟も部下も金や穀物を貸している。わたしたちはその負債を帳消しにする。あなたたちも今日あなたたちに負債のある者に返しなさい。畑も、ぶどう園も、オリーブ園も、家も、利子も、穀物も、ぶどう酒も、油も。」彼らはそれに答えた。「返します。何も要求しません。お言葉どおりにします。」わたしはこの言葉どおり行うよう誓わせるために祭司たちを呼んだ。わたしはまた衣の折り重ねたところを振るいながら言った。「この約束を守らない者はだれでも、このように神によってその家と財産から離され、振るい落とされるように。このように振るい落とされて無一物となるように。」会衆は皆で、「アーメン」と答え、神を賛美した。民はその言葉どおり行った。

アモス書 8 章 5 節

お前たちは言う。「新月祭はいつ終わるのか、穀物を売りたいものだ。安息日はいつ終わるのか、麦を売り尽くしたいものだ。エファ升は小さくし、分銅は重くし、偽りの天秤を使ってごまかそう。」

アモス書 8 章 6 節

弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう。

宝石など イザヤ書 3 章 16 節

主は言われる。シオンの娘らは高慢で、首を伸ばして歩く。
流し目を使い、気取って小股で歩き足首の飾りを鳴らしている。
主はシオンの娘らの頭をかさぶたで覆い
彼女らの額をあらわにされるであろう。

その日には、主は飾られた美しさを奪われる。
足首の飾り、額の飾り、三日月形の飾り、
耳輪、腕輪、ベール、
頭飾り、すね飾り、飾り帯、匂袋、お守り、

指輪、鼻輪、
晴れ着、肩掛け、スカーフ、手提げ袋、
紗の衣、亜麻布の肌着、ターバン、ストールなどを。

芳香は悪臭となり、帯は縄に変わり
編んだ髪はそり落とされ
晴れ着は粗布に変わり美しさは恥に変わる。

シオンの男らは剣に倒れ勇士は戦いに倒れる。
シオンの城門は嘆き悲しみ奪い尽くされて、彼女は地に座る。

アモス書 4 章 1 節

この言葉を聞け。サマリアの山にいるバシャンの雌牛どもよ。弱い者を圧迫し、貧しい者を虐げる女たちよ。「酒を持ってきなさい。一緒に飲もう」と夫に向かって言う者らよ。

裁判 アモス書 5 章 10 節

彼らは町の門で訴えを公平に扱う者を憎み真実を語る者を嫌う。

アモス書 2 章 8 節

祭壇のあるところではどこでもその傍らに質にとった衣を広げ科料として取り立てたぶどう酒を神殿の中で飲んでいる。

エレミヤ書 22 章 13 節

災いだ、恵みの業を行わず自分の宮殿を正義を行わずに高殿を建て同胞をただで働かせ賃金を払わない者は。

ヨブ記 24 章 2 節～12 節

人は地境を移し
家畜の群れを奪って自分のものとし
みなしごのろばを連れ去り
やもめの牛を質草に取る。
乏しい人々は道から押しのけられ
この地の貧しい人々は身を隠す。

彼らは野ろばのように
荒れ野に出て労し、食べ物を求め
荒れ地で子に食べさせるパンを捜す。
自分のものでもない畑で刈り入れをさせられ
悪人のぶどう畑で残った房を集める。
着る物もなく裸で夜を過ごし
寒さを防ぐための覆いもない。
山で激しい雨にぬれても
身を避ける所もなく、岩にすがる。
父のない子は母の胸から引き離され
貧しい人の乳飲み子は人質に取られる。
彼らは身にまとう物もなく、裸で歩き
麦束を運びながらも自分は飢え
並び立つオリーブの間で油を搾り
搾り場でぶどうを踏みながらも渴く。
町では、死にゆく人々が呻き
刺し貫かれた人々があえいでいるが
神はその惨状に心を留めてくださらない。

アモス書 5 章 21 節～24 節

わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。

祭りの献げ物の香りも喜ばない。

たとえ、焼き尽くす献げ物をわたしにささげても

穀物の献げ物をささげても

わたしは受け入れず

肥えた動物の献げ物も顧みない。

お前たちの騒がしい歌をわたしから遠ざけよ。

豎琴の音もわたしは聞かない。

正義を洪水のように

恵みの業を大河のように

尽きることなく流れさせよ。

アモス書 2 章 6 節～8 節

主はこう言われる。イスラエルの三つの罪、四つの罪のゆえに

わたしは決して赦さない。
彼らが正しい者を金で貧しい者を靴一足の値で売ったからだ。
彼らは弱い者の頭を地の塵に踏みつけ／悩む者の道を曲げている。
父も子も同じ女のもとに通いわたしの聖なる名を汚している。
祭壇のあるところではどこでもその傍らに質にとった衣を広げ
科料として取り立てたぶどう酒を神殿の中で飲んでいる。

申命記 24 章 12 節～13 節

もし、その人が貧しい場合には、その担保を取ったまま床に就いてはならない。日没には必ず担保を返しなさい。そうすれば、その人は自分の上着を掛けて寝ることができ、あなたを祝福するであろう。あなたはあなたの神、主の御前に報いを受けるであろう。

アモス書 / 4 章 1 節～3 節

この言葉を聞け。サマリアの山にいるバシャンの雌牛どもよ。
弱い者を圧迫し、貧しい者を虐げる女たちよ。
「酒を持ってきなさい。一緒に飲もう」と
夫に向かって言う者らよ。
主なる神は、厳かに誓われる。
見よ、お前たちにこのような日が来る。
お前たちは肉鉤で引き上げられ
最後の者も釣鉤で引き上げられる。
お前たちは次々に、城壁の破れから引き出され
ヘルモンの方へ投げ出されると
主は言われる。

アモス書 5 章 10 節～12 節

彼らは町の門で訴えを公平に扱う者を憎み
真実を語る者を嫌う。
お前たちは弱い者を踏みつけ
彼らから穀物の貢納を取り立てるゆえ
切り石の家を建てても
そこに住むことはできない。
見事なぶどう畑を作っても

その酒を飲むことはできない。
お前たちの咎がどれほど多いか
その罪がどれほど重いか、わたしは知っている。
お前たちは正しい者に敵対し、賄賂を取り
町の門で貧しい者の訴えを退けている。

アモス書 6 章 4 節～6 節

お前たちは象牙の寝台に横たわり
長いすに寝そべり
羊の群れから小羊を取り
牛舎から子牛を取って宴を開き
豎琴の音に合わせて
歌に興じダビデのように楽器を考え出す。
大杯でぶどう酒を飲み
最高の香油を身に注ぐ。

イザヤ書 1 章 10 節～17 節

ソドムの支配者らよ、主の言葉を聞け。ゴモラの民よ
わたしたちの神の教えに耳を傾けよ。

お前たちのささげる多くのいけにえが
わたしにとって何になるうか、と主は言われる。
雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物にわたしは飽いた。
雄牛、小羊、雄山羊の血をわたしは喜ばない。
こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが
誰がお前たちにこれらのものを求めたか
わたしの庭を踏み荒らす者よ。

むなしい献げ物を再び持って来るな。
香の煙はわたしの忌み嫌うもの。
新月祭、安息日、祝祭など
災いを伴う集いにわたしは耐ええない。
お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを
わたしは憎んでやまない。

それはわたしにとって、重荷でしかない。
それを担うのに疲れ果てた。
お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。
どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。
お前たちの血にまみれた手を洗って、清くせよ。
悪い行いをわたしの目の前から取り除け。
悪を行うことをやめ善を行うことを学び
裁きをどこまでも実行して
搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り
やもめの訴えを弁護せよ。

イザヤ書 3 章 14 節～17 節

主は裁きに臨まれる

民の長老、支配者らに対して。

「お前たちはわたしのぶどう畑を食い尽くし
貧しい者から奪って家を満たした。

何故、お前たちはわたしの民を打ち砕き
貧しい者の顔を白でひきつぶしたのか」と
主なる万軍の神は言われる。

第2 バチカン公会議公文書 現代世界憲章

第1 部 教会と人間の召命

第4 章 現代世界における教会の任務（続）

43（教会がキリスト者を通して社会に提供する援助）

公会議は天上と地上とふたつの国の市民であるキリスト者が、福音の精神に導かれて、地上の義務を忠実に果たすよう援助する。われわれがこの世に永続する国を持たず、未来の国を求めることを知って、それゆえに地上の義務を怠ってもよいと考える者はまちがっている。かれらは自分の受けた召命に忠じて地上の義務を果たすべきことを、信仰そのものが強く命じていることを忘れてからである。これと反対に、**宗教生活を単なる祭典の行事と若干の道徳的義務の遂行にすぎない**と考え、**地上の仕事は宗教生活と完全に無関係である**かのように、それに没頭してもよいと思う者も同様にまちがっている。

多くの人に見られる信仰と日常生活の離反は現代の重大な誤りの一つと考
えるべきである。すでに旧約において預言者*はこのような醜聞を激しく糾
弾し、それにも増して新約においてはイエズス・キリスト自身が重い罰を警
告している。したがって一方には、職業的・社会的活動、他方には宗教生活
を不当にも互いに対立させてはならない。世俗的義務を怠るキリスト者は隣
人とさらには神自身に対する自分の義務を怠り、自分の永遠の救いを危うく
する。むしろキリスト者は、職人として働いたキリストの模範に従い、人間
的・家庭的・職業的・学問的・技術的努力を宗教的価値と結びつけ、いきい
きとした一つのものとして結合することによって、自分のあらゆる地上的活
動を行えることを喜ばなければならない。すべてのものを宗教的価値によっ
て秩序づけることによって、すべてが神の栄光に向けて調整される。

「預言者*」の注釈 = イザヤ書 58 章 1 節～12 節

喉をからして叫べ、黙すな
声をあげよ、角笛のように。
わたしの民に、その背きを
ヤコブの家に、その罪を告げよ。
彼らが日々わたしを尋ね求め
わたしの道を知ろうと望むように。
恵みの業を行い、神の裁きを捨てない民として
彼らがわたしの正しい裁きを尋ね
神に近くあることを望むように。
何故あなたはわたしたちの断食を顧みず
苦行しても認めてくださらなかったのか。
見よ、断食の日にお前たちはしたい事をし
お前たちのために労する人々を追い使う。
見よ／お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし
神に逆らって、こぶしを振るう。
お前たちが今しているような断食によっては
お前たちの声が天で聞かれることはない。
そのようなものがわたしの選ぶ断食
苦行の日であろうか。
葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと
それを、お前は断食と呼び

主に喜ばれる日と呼ぶのか。
わたしの選ぶ断食とはこれではないか。
悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて
虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。
更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え
さまよう貧しい人を家に招き入れ
裸の人に会えば衣を着せかけ
同胞に助けを惜しまないこと。
そうすれば、あなたの光は曙のように射し出で
あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し
主の栄光があなたのしんがりを守る。
あなたが呼べば主は答え
あなたが叫べば
「わたしはここにいる」と言われる。
軛を負わすこと、指をさすこと
呪いの言葉をはくことを
あなたの中から取り去るなら
飢えている人に心を配り
苦しめられている人の願いを満たすなら
あなたの光は、闇の中に輝き出で
あなたを包む闇は、真昼のようになる。
主は常にあなたを導き
焼けつく地であなたの渴きをいやし
骨に力を与えてくださる。
あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。
人々はあなたの古い廃虚を築き直し
あなたは代々の礎を据え直す。
人はあなたを「城壁の破れを直す者」と呼び
「道を直して、人を再び住ませる者」と呼ぶ。

エレミヤ書 7 章 1 節～11 節

主からエレミヤに臨んだ言葉。主の神殿の門に立ち、この言葉をもって呼びかけよ。そして、言え。「主を礼拝するために、神殿の門を入れて行くユダの人々よ、皆、主の言葉を聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。

お前たちの道と行いを正せ。そうすれば、わたしはお前たちをこの所に住まわせる。主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼んではならない。この所で、お前たちの道と行いを正し、お互いの間に正義を行い、寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、無実の人の血を流さず、異教の神々に従うことなく、自ら災いを招いてはならない。そうすれば、わたしはお前たちを先祖に与えたこの地、この所に、とこしえからとこしえまで住まわせる。しかし見よ、お前たちはこのむなしい言葉に依り頼んでいるが、それは救う力を持たない。盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに香をたき、知ることのなかった異教の神々に従いながら、わたしの名によって呼ばれるこの神殿に来てわたしの前に立ち、『救われた』と言うのか。お前たちはあらゆる忌むべきことをしているではないか。わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる。

詩編 68 編 6 節

神は聖なる宮にいます。

みなしごの父となりやもめの訴えを取り上げてくださる。

反旗 1 列王記上 11 章 27 節

彼が王に反旗を翻すに至った事情は次のとおりである。(続く)

反旗 2 列王記下 16 章 5 節～9 節

そのころ、アラムの王レツィンとイスラエルの王、レマルヤの子ペカがエルサレムを攻めようとして上って来た。彼らはアハズを包囲したが、戦いを仕掛けることができなかった。このとき、アラムの王レツィンはエイラトを取り戻してアラムのものとし、ユダの人々をエイラトから追い出した。その後エドム人がエイラトに来て住み着き、今日に至っている。アハズはアッシリアの王ティグラト・ピレセルに使者を遣わして言させた。「わたしはあなたの僕、あなたの子です。どうか上って来て、わたしに立ち向かうアラムの王とイスラエルの王の手から、わたしを救い出してください。」アハズはまた主の神殿と王宮の宝物庫にある銀と金を取り出し、アッシリアの王に贈り物として送った。アッシリアの王はその願いを聞き入れた。アッシリアの王はダマスコに攻め上ってこれを占領し、その住民を捕虜としてキルに移し、レツィンを殺した。

反旗3 歴代誌下 28 章 5 節～8 節

それゆえ、その神、主はアハズをアラムの王の手に渡された。アラム軍は彼を打ち、多くの者を捕虜にしてダマスコに連れ去った。アハズはイスラエルの王の手にも渡され、大きな損害を被った。レマルヤの子ペカは、ユダで一日のうちに十二万人を打ち殺した。すべて勇士であった。彼らが先祖の神、主を捨てたからである。エフライムの勇者ジクリは、王子マアセヤ、侍従長アズリカムと王の代行エルカナを殺した。イスラエルの人々はその兄弟の国から婦女子二十万人を捕虜とし、大量の戦利品を奪って、サマリアに運び去った。

反旗4 歴代誌下 28 章 16 節

そのころ、アハズ王は援助を求めてアッシリアの王に使者を送った。

反旗5 イザヤ書 7 章 1 節

ユダの王ウジヤの孫であり、ヨタムの子であるアハズの治世のことである。アラムの王レツィンとレマルヤの子、イスラエルの王ペカが、エルサレムを攻めるため上って来たが、攻撃を仕掛けることはできなかった。

しるし イザヤ書 7 章 14 節

それゆえ、わたしの主が御自らあなたたちに **しるしを与えられる**。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。

祭壇 列王記下 16 章 10 節～11 節

アハズ王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会おうとしてダマスコに行き、ダマスコにある祭壇を見た。アハズ王が祭司ウリヤにその祭壇の見取り図とその詳しい作り方の説明書を送ったので、祭司ウリヤはアハズ王がダマスコから送って来たものそっくりに祭壇を築いた。しかも祭司ウリヤは王がダマスコから帰って来るまでにそれを仕上げた。

エジプトの戦車、騎兵 列王記下 18 章 21 節、24 節

今お前はエジプトというあの折れかけの葦の杖を頼みにしているが、それはだれでも寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは自分を頼みとするすべての者にとってそのようになる。

戦車について、騎兵についてエジプトなどを頼みにしているお前に、どうしてわが主君の家臣のうちの最も小さい総督の一人すら追い返すことができようか。

エジプト イザヤ書 30 章 1 節～2 節

災いだ、背く子らは、と主は言われる。

彼らは謀を立てるがわたしによるのではない。

盟約の杯を交わすがわたしの霊によるのではない。

こうして、罪に罪を重ねている。

彼らはわたしの託宣を求めずエジプトへ下って行き

ファラオの砦に難を避けエジプトの陰に身を寄せる。

センナケリブ 列王記下 18 章 13 節

ヒゼキヤ王の治世第十四年に、アッシリアの王センナケリブが攻め上り、ユダの砦の町をことごとく占領した。

列王記下 19 章 6 節～7 節

イザヤは言った。「あなたたちの主君にこう言いなさい。『主なる神はこう言われる。あなたは、アッシリアの王の従者たちがわたしを冒瀆する言葉を聞いても、恐れてはならない。見よ、わたしは彼の中に霊を送り、彼がうわさを聞いて自分の地に引き返すようにする。彼はその地で剣にかけられて倒される。』」

イザヤ書 8 章 12 節～13 節

あなたたちはこの民が同盟と呼ぶものを何一つ同盟と呼んではならない。

彼らが恐れるものを、恐れてはならない。

その前におののいてはならない。

万軍の主をのみ、聖なる方とせよ。

あなたたちが畏るべき方は主。

御前におののくべき方は主。

死と契約 イザヤ書 / 28 章 15 節

お前たちは言った。

「我々は死と契約を結び、陰府と協定している。

洪水がみなぎり溢れても、我々には及ばない。
我々は欺きを避け所とし、偽りを隠れがとする。」

ミカ書 6 章 8 節

人よ、何が善であり

主が何をあなたに求めておられるかは

あなたに告げられている。

正義を行い、慈しみを愛し

へりくだって神と共に歩むこと、これである。

イザヤ書 1 章 17 節

善を行うことを学び

裁きをどこまでも実行して

搾取する者を懲らし、

孤児の権利を守り

やもめの訴えを弁護せよ。

国家 = 屠殺夫 ミカ書 3 章 1 節～3 節

わたしは言った。

聞け、ヤコブの頭たち

イスラエルの家の指導者たちよ。

正義を知ることが、お前たちの務めではないのか。

善を憎み、悪を愛する者

人々の皮をはぎ、骨から肉をそぎ取る者らよ。

彼らはわが民の肉を食らい

皮をはぎ取り、骨を解体して

鍋の中身のように、釜の中の肉のように砕く。

聖フランシスコ・ソラノ

ミッション (映画、1986 年)

追加リスト

サムエル記上 15 章 22 節

サムエルは言った。

「主が喜ばれるのは焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。
むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。
見よ、聞き従うことはいけにえにまさり
耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる。」

詩編 50 編 5 節～17 節

「わたしの前に集めよ
わたしの慈しみに生きる者を
いけにえを供えてわたしと契約を結んだ者を。」
天は神の正しいことを告げ知らせる。
神は御自ら裁きを行われる。
「わたしの民よ、聞け、わたしは語る。
イスラエルよ、わたしはお前を告発する。
わたしは神、わたしはお前の神。
献げ物についてお前を責めはしない。
お前の焼き尽くす献げ物は
常にわたしの前に置かれている。
わたしはお前の家から雄牛を取らず
囲いの中から雄山羊を取ることもしない。
森の生き物は、すべてわたしのもの
山々に群がる獣も、わたしのもの。
山々の鳥をわたしはすべて知っている。
獣はわたしの野に、わたしのもとにいる。
たとえ飢えることがあろうとも
お前に言いはしない。
世界とそこに満ちているものは
すべてわたしのものだ。
わたしが雄牛の肉を食べ
雄山羊の血を飲むとでも言うのか。
告白を神へのいけにえとしてささげ
いと高き神に満願の献げ物をせよ。」

それから、わたしを呼ぶがよい。
苦難の日、わたしはお前を救おう。
そのことによって
お前はわたしの栄光を輝かすであろう。」

イザヤ書 58 章 1 節～7 節

喉をからして叫べ、黙すな
声をあげよ、角笛のように。
わたしの民に、その背きを／ヤコブの家に、その罪を告げよ。
彼らが日々わたしを尋ね求め
わたしの道を知ろうと望むように。
恵みの業を行い、神の裁きを捨てない民として
彼らがわたしの正しい裁きを尋ね
神に近くあることを望むように。
何故あなたはわたしたちの断食を顧みず
苦行しても認めてくださらなかったのか。
見よ、断食の日にお前たちはしたい事をし
お前たちのために労する人々を追い使う。
見よ／お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし
神に逆らって、こぶしを振るう。
お前たちが今しているような断食によっては
お前たちの声が天で聞かれることはない。
そのようなものがわたしの選ぶ断食
苦行の日であろうか。
葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと
それを、お前は断食と呼び
主に喜ばれる日と呼ぶのか。
わたしの選ぶ断食とはこれではないか。
悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて
虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。
更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え
さまよう貧しい人を家に招き入れ
裸の人に会えば衣を着せかけ
同胞に助けを惜しまないこと。

マタイによる福音書 5 章 11 節～12 節

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」